

重点 14 学習環境の改善

1 校舎の整備状況

ねらい

学校施設は、児童・生徒にとっては生活時間の大部分を過ごす学習・生活の場所です。このため、環境整備は心身の健全育成のために重要なことであり、健康的で安全な施設環境の確保に努めています。

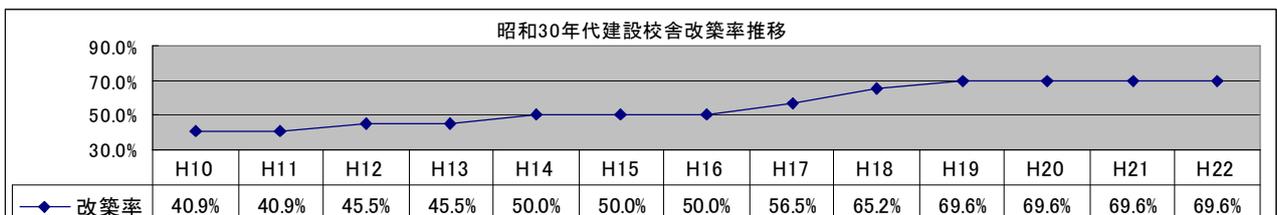
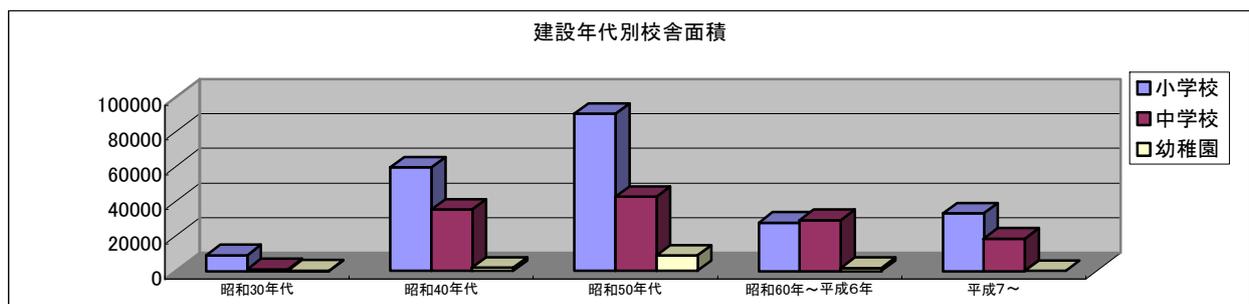
現状と課題

- ・ 昭和30年代（一部40年代を含む）建設のベランダ形式校舎は、改築によらなければ学習環境を改善できないため、改築をもって整備を行う必要があります。
- ・ 建設から30年を経過する校舎が半数を超える中、その他の校舎については、良好な学習環境の確保と施設の長寿命化を図るため、大規模改修を計画的に実施していく必要があります。

建設年代別面積（平成22年4月1日現在）

単位：㎡

建設年	小学校		中学校		幼稚園		全体	
	校舎面積	割合	校舎面積	割合	園舎面積	割合	校舎面積	割合
昭和30年代	6,417	2.9%	932	0.7%	304	2.3%	7,653	2.1%
昭和40年代	59,302	26.7%	35,226	27.7%	1,962	15.2%	96,490	26.6%
昭和50年代	90,516	40.8%	42,766	33.6%	8,869	68.5%	142,151	39.3%
昭和60年～平成6年	27,818	12.5%	29,370	23.1%	1,742	13.5%	58,930	16.3%
平成7～	37,913	17.1%	18,918	14.9%	69	0.6%	56,900	15.7%
計	221,966	100.0%	127,212	100.0%	12,946	100.0%	362,124	100.0%



今後の方向性

- 新総合計画の10年間に於いて、改築を必要とする5校の校舎について改築整備を進める（河原田小学校は現在改築工事中）とともに、昭和40年代建設校舎（一部30年代を含む）について大規模改修を実施していくことにより、良好な学習環境の確保と施設の長寿命化を図っていきます。